8.目標設定と実現での責任と参加

質問 ： 教区や小教区の目標設定とその実現のためのプロセスは、誰が、どのように決定していますか。
チームワークと共同責任は、どう実践されているでしょう。信徒の参加はどうでしょうか。
教区レベルでの共同決定・共同責任を実践する機関はありますか。その実りと妨げは何でしょうか。

教会の運営にできるだけ協力を惜しまず励むことが大切
小教区評議会、話し合いで決定
担当部会を原点として、意見交換、何気ない会話を大切にする
目標設定と実現のプロセスは、司祭を含めた役員会とブロック会議で決定
ブロックでの話し合いの結果や目標は小教区に下される

ブロック化が安定し、そこでの話し合い、協議が小教区に反映され、連動している実感は得ている
ブロック目標に従って小教区は活動していると思う
信徒全体会議で１年間の活動行事目標が信徒評議会で承認され提出される
重要なことは、役員から文書で信徒に紹介され、意見を聞いて評議会で決定される
個々の活動は評議会で担当部会から提案され、承認されれば部会が中心となり共同体全体が協力
モデラトールから、各小教区の信徒（それぞれの役割責任者）へ

評議会においては、主体となって活動している役員を中心にして決定している
教会行事に関しては、役員と各部会の部会長で構成する評議会で決めている
目標設定は教区の目標に合わせ役員が企画し評議会に諮り決定される
決定は評議会、メンバーは、司祭、代表３名、５部の部長、財務委員、墓地委員
５つの部で それぞれ案を出し、司祭、評議会に報告し、評議会で決定
信徒からの声は各部会からくみ取り、それを各部長がまとめて評議会に上げる
各部共同で決定事項を実施している
教育目標やミッションコミットメント等は学校長が中心となって決定を行ない、授業内容・宗教行事の詳細等は宗教科・宗教部（カトリック・ミッション・センター）が決定を行っている（教育施設）

議案は各部や関係部署などから上がってきて、話し合い、結果はまた部へ下りて共有
小教区の長期と短期の計画を評議会で話し合い、ブロック会議を経て、まとめを教区に提出
小教区レベルでの共同決定・共同責任を実践する機関としては司祭と代表３名
代表３名の内２ 名は年に４回ブロック会に出席
教区や、ブロックレベルの活動行事等は役員会で協議され、評議会で報告、内容に応じて各部長に依頼
教区、ブロック計画をもとに小教区計画を策定し、評議会で決定する

典礼行事は教会の役員と司祭、さらに評議会で予定を決め実行し、信徒には役割分担がある
黙想会にどの神父様を招くかなどの実際の運営は、役員が相談して案を出し、評議会で決定する
少人数、 超高齢者、 遠距離、交通手段なしなどの悪条件でも信徒は精一杯参加し協力している
チームワークは抜群
今までの方針をベースに役員が素案をつくり「みんなでやろう」の方針で「部」は設けず「担当」として運営
共同決定・共同責任を実践する際の実りは連帯の喜び
教員の中に信徒は非常に少ないが、カトリック精神をもとにした教育を協力的に行っている

外国人と日本語学習もかねて日本語で分かち合いをしていた
ブロックの国際協力部が中心になって、外国の方との国際交流会を開いていた
行事のとき普段教会に来られない人に声をかけ、子ども集まり、外国人の若い信徒が遊んでくれた
ブロック計画の中で研修会とかサマーキャンプなどを企画し実施している。
部会へは個別に勧誘したほうが、効果があり、協力してくれる若い人もいてうれしい

奉仕を通じて、互いを知り、多くの方と関われる
「共同責任」は、役員を中心として小教区評議会が責任を負っている
評議会で長期目標・短期目標が、期日に間に合うように提案される
事があるにつけ発言、発信をしている
実り…区から地区へ考え方が変わってきた
役員会、評議会で決定されたことについては、信頼して従っている
役員さんの決めてくださったことに、従える範囲でかかわっている
（小教区信徒）総会
役員には大変お世話になり感謝

地域で集うことで情報が伝わり易く、教会に来ることができない人、忘れ去られている人も見つけやすい
地域でフォローすると信徒自身のことや家庭がよく見えてくる
各自余裕がある時に小教区で奉仕作業をする
掃除当番：個人名の担当制より地区グループ担当制の方が人の動静がよく見える

〈課題〉

ブロック会議の議事録は配信されるが、具体的行動には結びついていない
毎年の宣教司牧計画を具体化する努力が必要
目標をたくさん設定せず、一つの目標で一年をどう過ごすか信徒と共に考える方が共有できる
目標設定、共同設計、共同責任が形式化している
教会行事も、例年通りという感じで、年ごとの目標を設定したりすることはない
この４年間に小教区の目標設定を議論したことはない

妨げとなるのは、意思疎通が出来ていないこと
共同で実施すると、互いに協働のよさを体験出来るが、意思の疎通が必要
評議会および信徒総会で意識して宣教計画を作る必要がある
自分たちの意見の発信という意識がない

今回のシノドスを機会として自分のこととして捉え直す機会になることを期待する
今回のシノドスが良いきっかけとなり、信徒各自が自分にできることを、真剣に考え直すこと
新しい司祭が来られてシノドスとともにこれから動き出す

責任の所在が曖昧、信徒の参加は少ない
チームワークはうまくいっていることもあれば、そうでないこともある
目標設定はごく一部の評議会メンバーが決定している

役員で協議決定され、一般信徒は報告で知るだけ
年に1度全体集会を行うが、それは報告会であり、目標を話し合ったり何かを決定したりする場所ではない
信徒参加のためにはすべての信徒に分かるように伝える努力が必要
決まったことや変更されたことなどは文書にして貼り出すなどしないと、聞いていないと言われてしまう
決まったこと、話し合われたことが、信者に伝わらない
ミサの説教、あるいはお知らせの時間を使い、司祭や担当者が報告することも大切

一般信徒がなかなか積極的に参加できていない
一人一役で各部に入って話し合い評議会に上げることで意見を反映したいが、現状はできていない
一般信徒の声がすくい上げてもらえてないので、関心が薄くなっている
出席者を増やし、多種多様な意見を集めるために、ルールに則った納得できる運営が必要

人々の意見を汲み取れるシステムを検討する
ご意見箱設置の要望があった
部会を開いて信徒の意見を聞く機会を持つようにする
地域ごとに分けてフォローできる体制を検討する
毎年目先の行事に追われて実際の活動に結び付いていない
与えられた役割に忠実であろうとするあまり完璧主義になり、躓くと、教会には行きたくないと思う

信徒会の頃、青年会・婦人会・壮年会があり、人も多く世代交代もできていた
各部とも交代する人がいなくて、現在の担当者が熟練して辞められると困る状態
部会を実施しても部員の出席が少なく、部長が多忙
役員や代表者が変わるので、誰に話せばよいのか分かりにくい
共同宣教司牧後、世代交代がなく同じ人が役割を担い続けている
若い世代がいきなり評議員を依頼されて不安を感じつつ参加している

教会では失敗できない雰囲気があるので、役を引き受けてもらえない感じがある
今の教会に魅力がないと感じられていることが問題、だから参加が減っている
役員が固定化しているなかで、極力新しい人にお願いしているが、人材不足
いきなり重い役を任せると、教会から離れてしまう原因になることがある

奉仕を担う人が不足する状況で、近隣の小教区と一緒になる話はもっと早くあってもよかった
動ける人の中で仕事の再編成を考えてみることに可能性がある
高齢や仕事で参加できない人や、そもそも教会に来られないことで参加は少ない
高齢化にあって、部署制において絶対必要な人数を検討する必要がある
部署制の見直しは必要、項目を絞って最低限必要な項目に絞っていく
人数も少ない教会では、ブロック会議・役員会・評議会と降ろして活動するのが精一杯
信徒の人数が少なく、目標は掲げているだけで実現には程遠い現状

若い人たちを育てていく方法、教会が存続していくための方法を議論する必要
教会学校を長年担当しているが、後継者のことを考えると不安
かつて熱心な信徒に、その熱心さからか恫喝されたが、ブレーキ役がいないと上手く回らない
組織の構造が分かりにくいので、明確にしていく必要がある
教会が子どもにとって楽しい場所になってほしい
ミサ後に懇親会をもつ

組織目標・実現のための福音宣教組織体制・役割と責任の一体化運営への転換
小教区で権威の行使と、チームワークと共同責任の実行を進めることについて振り返ってみる必要がある
評議会は共同体づくりを考えていかなければならないが、振り返りがしっかりできていない
評議会で決定されているが、教区レベルでの共同決定、実りと妨げについてよくわからない

小さな子どもとその保護者が迷惑だと思わずに来られるような教会になる必要がある
平日の午後に日曜のミサに来られない人（精神的にしんどい人も含め）が集える会がほしい
教会の行事は祈りを中心とした集まりであるべきで、家庭でもみんなが共に祈り繋がるような行事が出来ないか
部会の活動を好きでしているが、活動に批判的な意見は気分が滅入る
実践するプロセスは整っているが、信徒は資料や文書等で目標を知るだけで、共有している実感はない

掃除をミサ後にすると、掃除せずに帰る人が気になるので、ミサと別の日のほうが気楽にできる
奉仕が人を助け、神の心を伝え、聖霊の働きを感じることができたことを分かち合う
奉仕への負担感は個人差があり、互いの寛容さが必要
信徒一人一人が他人任せにせず、少しずつ役割を担っていかなければ、少数の人に負担をかけるだけ
多くの方に広く浅く少しずつ役割をお願いして、特定の人に偏らないように配慮が必要
教会は内向き、信徒でない人を教会に連れてこない

地区ごとの個性や目標が多すぎて見失う、ぼやけている
妨げ…昔のことをもちだす考え方、「昔はよかった」と言ってもはじまらない
文章にこだわらず、識別する必要
役員は大変、負担が大きい

共同責任の意識を高める必要あり
無関心な方が多い
教会の役割は、人任せにしない、自分も一緒に担う、一人一役
多様な賜物とその可能性を認識して役割分担ができる調和のある共同体になる
各自の意識を高めること、出来ないではなく、出来ることは何かという意識に変える
信徒がその責任に興味を持ち、それぞれ何らかの具体的な形で参加できるのではないか
宣教司牧計画など一般信徒がかかわりを持つことは難しいが、意見を聞くことが必要
私自身は、宣教司牧計画や教会活動などを決める時に、あまり積極的に関わってこなかったことを反省
小教区の年一回の総会を通してかかわる以外、積極的には参加していない

ケアが必要な同居家族がいる場合に共同責任や参加と言われても無理がある
生活状況によっては維持費納入ができないとか役員になれないために参加しにくい人もいる
人材が乏しいので、全体で分かち合うことは現実的と言えない
教会評議員会で決め、関わり方を信徒に知らせているが、ミサに来られない方には伝わりにくい

カトリック新聞や教区時報は信徒向けに、「心のともしび」を宣教のために積極的に使いたい
奉仕や献金を義務でなく、積極的に意味があることとして認識できるようになる
重荷を負った人も集える教会になるため、奉仕や献金のあり方が教会流であってほしい
責任は個人の意識レベルによるもので、信徒の参加は強制されるものではない
実りと妨げには教会の規模が関係する
創価学会は選挙の度に、毎回家を訪問し、チームワークが強い
カトリックの信徒同士のつながりは弱く、もっと横のつながりができれば、力を発揮することができるはず

静かにできない子どもは連れて行けない……上手にできる人だけが奉仕する……できない自分は静かに一人祈って帰るだけ……目立たず声をかけられないよう、役が回ってこないように……
計画実施場所から遠いことが多く、日本人が少なく多言語なので、理解されにくく、参加少数

育ち盛りの組織なら、みなが共通の目標をもつための論議も大切だが、統廃合を求められる教会では無理
目標設定、責任、参加は関係ない
教区全体として共通の目標設定を行ない、実現への具体的な参加方法が示されれば良い

コロナ禍で人との繋がりが希薄になりがちな今こそ、教会の役割は大きい
コロナ禍では多くの計画が中止となった
コロナ禍でこの 3 年間程は、目標設定やそのプロセスの周知が不十分であった
コロナ禍が終わる時点で、再度目標設定の周知を図り、宣教活性化につながれば良いと思う

教会の運営全体の責任者は、信徒ではなく、司祭だと思う
司教が小教区を回って熱く語れば、寝ている信徒もやる気を起こすかも
司祭に小教区の方針、運営などに関わり、責任をもってやっていただきたい
説教やお知らせは、なるべく短く、できればない方がよいという意見もある
司祭が教会掛け持ちで多忙で、信徒との交わりが身近でないので、ミサ時間変更を検討してほしい